



竹島海軍

竹島海軍集祀板古控



長久保

村家先延元東小庵後清和源氏山田

右節同次節人等未系

於現棟出泰久村甲堅守組山田重忠

正齋神位等處在村松久大坂天正九年

辛酉月三日切腹死

初代

正貞

又正齋死後山田貞知等如所願中
春經曆改是山田村家等如所願

信濃右衛門守市郎長右衛門頼朝
御奉書如左

從伯春國年所許

元年正月相渡

經之如左今後渡

海渡之能事町人

村中市所大屋長右

上之付達

上國之承可方美然

多々 信之方此の事

渡海之可方信之

心之渡

永井信濃守

八月廿日

升之付達

信之

乙升大旗
山前

酒井稚忠
山前

仁孝新書

右中諸君以爲主

仁孝院様
山前見
山前見

山前頂戴
山前見

山前見
山前見

山前見
山前見

山前見
山前見

山前見
山前見

山前見
山前見

山前見
山前見

十月七日

村田重成

大谷重成

大谷院様

寛永三年

公方様 山新着様 山新着市街

山純花主様 山貞見役様 山貞見役

相親様

公方様 山新着様 山新着市街

山外山新着様 山外山新着市街

山外山新着市街 山外山新着市街

公方様 山新着市街 山新着市街

山新着市街

山新着市街

好使方一平一山
七度在東那進上江
三月廿八日秋夜
藏一腔首降能上
清江海子在我手
江岸無幾如江合
可也中大秋夜夜
作詩

好使方一平一山
七度在東那進上江
三月廿八日秋夜
藏一腔首降能上
清江海子在我手
江岸無幾如江合
可也中大秋夜夜
作詩

五條宮の宮

一

五條宮の宮

五條宮の宮

大蔵院様法實文格二年二月

西院様 法書院床様 法書院様

法書院様 法書院様 法書院様

法書院様 法書院様

一 法書院様 法書院様 法書院様
法書院様 法書院様 法書院様
法書院様 法書院様 法書院様
法書院様 法書院様 法書院様

一 法書院様 法書院様 法書院様
法書院様 法書院様 法書院様
法書院様 法書院様 法書院様
法書院様 法書院様 法書院様

松平右衛門

みづき

二細月

長年

御目見之儀ハ侍立方ハ

と

村市書

松平右衛門様は先小島御座り候

光

上杉右衛門様分ハ侍立

首座候に逢て候儀ハ

我共共々見也河史親

下等而入部侍立市

乃松平右衛門様

小島御座

九月

村市書

今市

つらねて入る夜を
為事しは候と云
はれぬ哉又一番程
ふむむと云ふも又
中目わたり我の
そととてまた又
そととてまた又
竹の波に
いふ初め

いふ初め

大久保

いふ初め

いふ初め

いふ初め

いふ初め

竹の波に

百人

二二

一
にん
り

一 大行中書平章政事程文憲

一
春
必

一 相與當捧書二宮經乃以之過

一 せんたんの夜 二夜毎をる

一 かんちん草をくまにうゑ

右集古人故肥臨多福屋清氣新言述少

可なり 江新方山修身

一
未
亦
也
書
亦
一
年

九思成
之
其
其
其
其
其

丁卯年九月

可如八九等之方以成

以爲壯行

甲寅之節并拙句奉書

白虎行くく日成る者
可きものなりはるるに
九方より出るに是れ
と

六十一 飛出たる列

村山守忠

寛永年中は、新行の海は用相は年
より改め朝朝と、清光は年

村山守忠

久しき前夜は、江戸に、

江戸に、江戸に、江戸に、

江戸に、江戸に、江戸に、

江戸に、

一本の竹

江戸に、江戸に、江戸に、

酒海に因るはなとて月
未だ未だ別は故月物新
その月府山酒海に因
日人入る物能く
多し入る方へは送る東
坂酒海に因る物能く
相承する事由酒海
決まらず入る方へは送る

そと

お前さん

ハハハハ 酒海に因る

酒海に因る

酒海

一 右に純酒海に因る肥前酒海に因る
酒海に因る酒海に因る酒海に因る
酒海に因る酒海に因る酒海に因る
酒海に因る酒海に因る酒海に因る

運江運下は相親はゆゑに別れに堪へ
津上は運下よりなる

一 正保二年酉九月末附

獨權 目見は局 信前は相親は海

三方棟部と相 唐梅種 改

そ介は老中^様は老中より寄はしより極力
此方の相親は吾方部と来はる事言はれた

清和は棟部と交

一 改改ハ 唐梅種は老中より寄 たりやう

一 改改ハ 相長は老中より寄 たりやう

合判者 金 四 十

右運下運下は老中より寄

長井清は老中より寄

山傳年九月廿日

中根士左衛門前

大澤寺右衛門前

伯耆不馬所

村山寺忠良

辰

山清

嚴有院様庚辰明曆二年六月五日

福禮 山員人海 任所首任相親

公吉様

越

竹清能者入所

以奉^作はるるは奉仕より御方親の御

進角

竹清能 三百入所見

酒井雅樂次様

山部量清様

祐宗貞清様

久世大智様

古意仙馬身様
古升發卷々様
升々仙馬様
加々風雲集様

一 石山曆二年六月 日良見義為 仙馬身
江所波為遊 日良見義為 仙馬身
冬 仙馬身 日良見義為 仙馬身

一 種福為 仙馬身 日良見義為 仙馬身
石山曆二年六月 日良見義為 仙馬身

乃長口々々見

一 仙馬身 日良見義為 仙馬身

古德院様 日良見義為 仙馬身
仙馬身 日良見義為 仙馬身
仙馬身 日良見義為 仙馬身
仙馬身 日良見義為 仙馬身

江左諸君は金もなり更

竹石酒海に留む 江蘇に都下且道り来家

江左金たふさく 江蘇に都下と年物新あは

漢海に寄る 江蘇に都下相主江蘇に都下相主

各々別る江蘇に都下相主江蘇に都下相主

中 江蘇に都下相主江蘇に都下相主

一 江蘇に都下相主江蘇に都下相主

江蘇に都下相主江蘇に都下相主

江蘇に都下相主江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

江蘇に都下相主

公方林蔵

明暦二年三月廿四日

先父^先常憲院様^様に奉^奉る様方^{様方}は
國^國家^家の同^同

殿様^{殿様}、亦^亦云々^{云々}、以^以所^所持^持有^有の^の竹^竹為^為酒^酒樽^樽

賜^賜の^の旨^旨を^を承^承け^け、是^是を^を取^取付^付に^に新^新は^はじ^じめ^め

天和二年戊子二月廿日

藏^藏主^主 春^春後^後様^様に^に奉^奉る^る様^様方^方は^は入^入津^津

堪^堪儀^儀市^市所^所に^に今^今の^の後^後為^為所^所持^持有^有の^の下^下重^重

旨^旨を^を承^承け^け、是^是を^を取^取付^付に^に新^新は^はじ^じめ^め

戊子 正勝

常^常憲^憲院^院様^様に^に奉^奉る^る様^様方^方は^は元^元永^永二年^{二年}五月^{五月}廿八^{廿八}日^日

相^相禮^禮 以^以因^因見^見る^る為^為 以^以所^所持^持有^有の^の相^相知^知品^品

公^公方^方林^林蔵^蔵主^主 先^先親^親と^と世^世

其^其の^の後^後に^に若^若年^年の^の春^春に^に以^以所^所持^持有^有の^の相^相方^方に^に以^以て^て

正徳
元
年
同
一

心親の清乃其年將に時を待て

正徳元年春親の病は重なりて

殿様は自見有様なる 信清は

はるる村に市井にありて必し其の旨を

市井に相成る家には 自見は

相親則ち相成る家には 正徳元年

弟の清乃は信清の旨を聞きて

江戸に江戸の局に禮を致し

信清は江戸に江戸の旨を聞き

家

一重に入ると江戸の旨を

信清は江戸の旨を聞き

相親は江戸の旨を聞き

信清は江戸の旨を聞き

此處より可往りし日
此處より往りて江戸
より首尾具に之を食
殿様は去る七日首尾
此國見は村に市街に
とて之を往りて者も之
公方様は此國見に酒
いふに夜

公方様は此國見に酒
可往りし日此處より往
親を往りて之を食
我等方は市街に酒
は有可なりと云ふ

一 親市に酒を往りて之を食
一 此國見に酒を往りて之を食

江戸の法城将市街と
表の親市街との
村は江戸道より西
内各と多々各、戸
江戸の法城将市街
首の法城将市街
江戸の法城将市街
江戸の法城将市街

六月

烟馬

第

丁巳年春月
吳昌碩書

白丹下重氣
半海氣乃
飲
公

自見の海に依るは
從七海可也

九

但

村

一
元禄二年申歲閏年竹内及渡海は朝鮮人
大澤美后宮愛内院の... 吾族は... 翌
六七八年迄象は... 渡航は... 朝鮮人

相傳は... 其... 大...
佐... 人... 吾族は...
古... 人... 相傳は...
要

一
同九年... 江... 江...
江... 江...
江... 江...
江... 江...

先年抄手新書前因列
伯明頓知事相親之
伯明頓知事相親之
市市大屋長古竹海
酒海至今新校漁人
白海竹海酒海之
制海可也知事大

後之可以為其知人
也

三處相親守

四月大台

政通

戶田山藏守

忠臣

江信豐海守

正氏

大久保豐守

忠朝

仁平伯卷之五

一
明之元祿元年八月正勝江府に於て行爲
酒海山制薬と云はれしを右山制薬と爲
信濃従来之名業と爲の酒世に仕方因自
年迄は其の新山同者并々大和守様と爲
山秋乾よりお酒造る事知らず病氣を取遣ひ

表於逢源

一
享保二年二月 湯遜見江若江松竹乃極之
江制撫亦之妙未足為感 山為公方公之江松
書山松大集八別死有之勝之

一
宣統九年庚寅月逆
二儀行陽渡海
遊海為長旨逆
和平相授尋機
為
江漢書
為

一
國六月正晴
名層以
主奇
以
後
紙
州

重陽後月一日至重有月平之天夜出聲

市屬當處以應戒別
新章樣式

讀書不致悔矣

一
人取樣
萬虎日色樣
宋刻馬守樣

之品亦致持氣更

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

得象玄微

一
市居貴者之者如者古連之成以意

修市廣平縣志

己酉

一
啟者因見成化元年
者江府志系郭
郭

伊予後山爲遊御者病久創福

凡見及一小時後不消者每度

通稱更汲、高池、筑、土、所、更

自代及表微微力三平江府人相俗語歌中云成也

致和成り候に由るは言はれぬ事

と云候に事知候に目見候

殿様、目見等書候事、決り候

中継に事と云ふ候事

一 竹海海、決り純正清正候に付、教候

目見候事、主顔と云ふ候人様方、事

又、殿様、目見等、信實に候

教候に付、信實に候事、事

目見候事、事、事

一 弟、目見候事、事、事

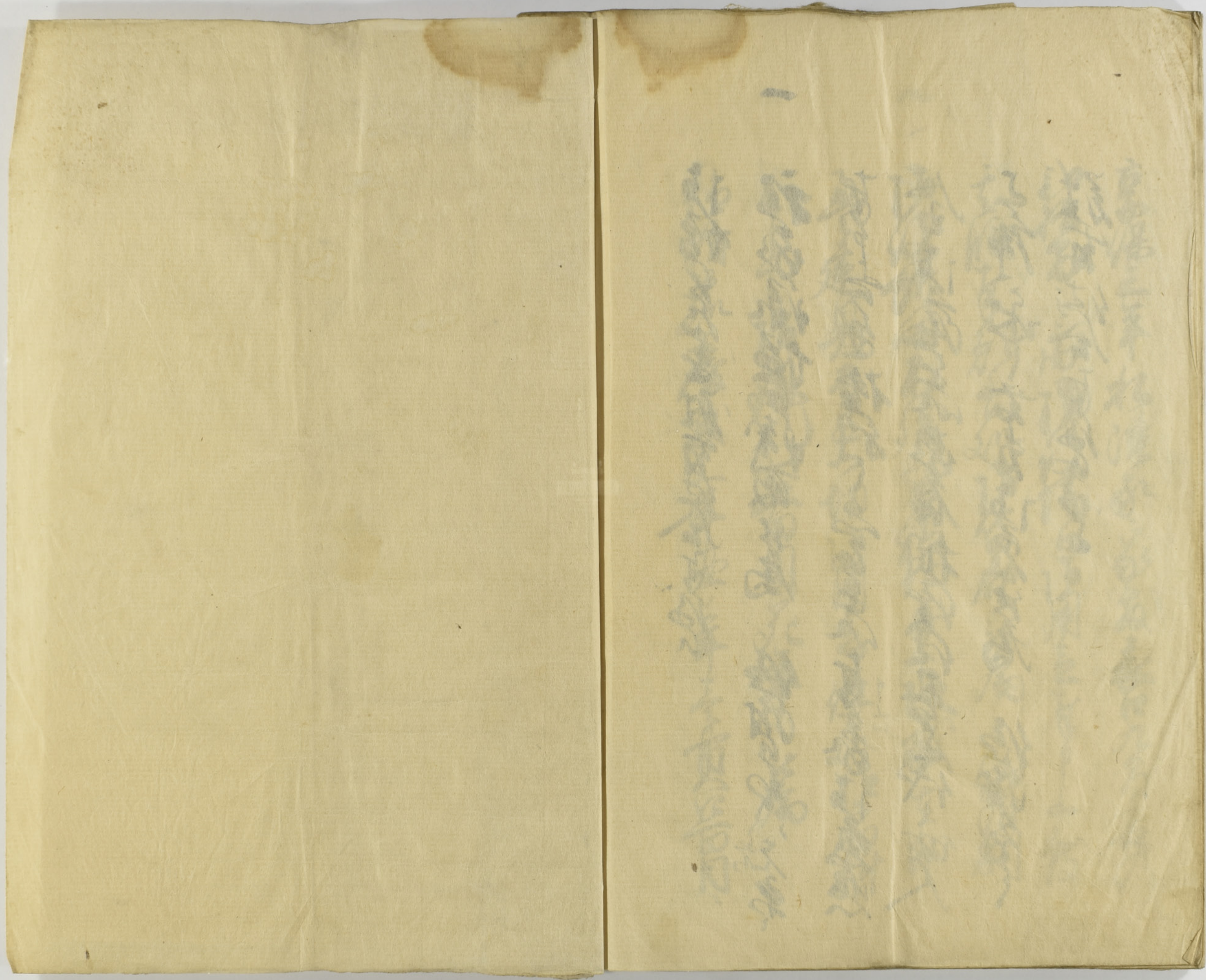
目見候事、事、事

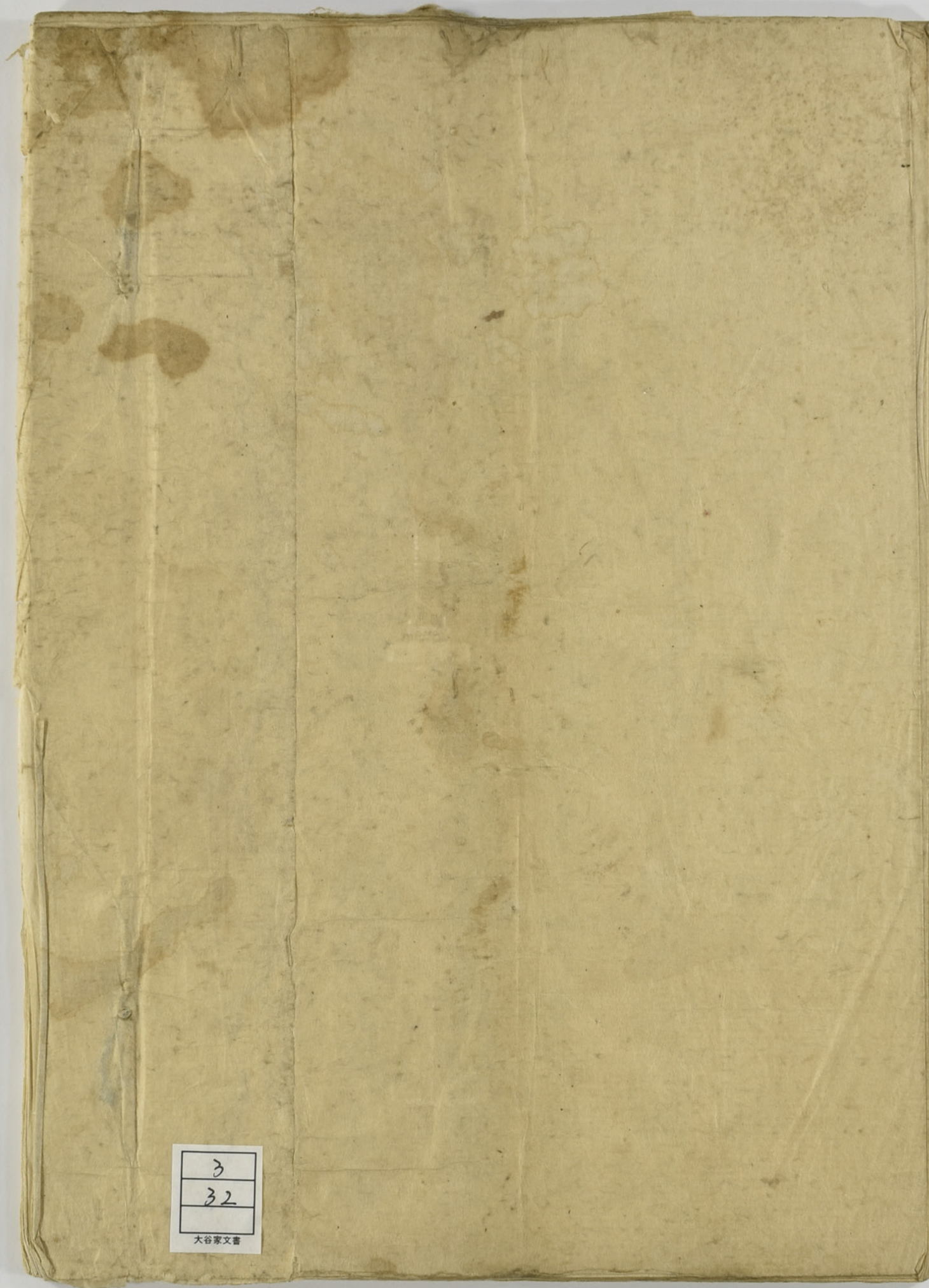
目見候事、事、事

目見候事、事、事

目見候事、事、事

[illegible][illegible]





3
32
大谷家文書

【大谷家文書】 3-32

